

先日の東京支部展には尾道のまちの風景二点出品致しました。この絵はかなり具象で、趣のある街の雰囲気は伝わるように留意したつもりです。

昨年思いがけずグランプリを受賞することができた「上野の森美術館日本の自然を描く展」ですが、今年も10号2点を出品。2点入選してそのうち1点が佳作賞をいただきました。7月4日に授賞式があり会期が始まりましたが、この会報が出るころは残念ながら終わつていかと思います。今年も昔のバルセロナの町のスケッチを基に制作、公園の地べたの絵です。よく考えられたタイトルと石の舗装面、その間に点在する風格のある铸物のマンホール蓋。建築をやっているせいか当時、美的だなどいぶ感動した想いを絵にしたかったのですが、絵にしようとするあまり、少しわかりにくい絵になってしまったくらいがあり、少し反省しております。

何をテーマに、どのような表現で、ということは大変難しいいつも思っています。同じく上野の森美術館主催のアートスクールSERECTION展ですが、アートスクールで勉強している生徒の作品展が4月にありその時20人が選ばれそれの人たちの選抜展も同時に別館で開催されました。私は昨年週末の単発講座に3度ほど参加しての出品でしたが、そこで選ばれ今回S50号1点出品しました。春の終わりの阿武隈川河畔の藪の絵です。ひたすら藪を描きました。



河畔浅春 S50(日本画)  
上野の森アートスクール  
アトリエ展 2015 セレクション

その後、8月12日〜20日まで開かれる「世界絵画大賞展」にも出品しましたが、ここでも1点佳作賞となりました。大震災のがれきの絵です。初めて応募する際、そのコンクールの狙い、審査員の顔ぶれ、過去の受賞者の作品の傾向を把握して出品しないと無駄な出品となってしまうということに漸く気が付きました。

現在、秋の本展に向けて100号2点に取り組みもうと思つてるところです。100号になりますと小さい絵に比べ大きいならでの難しいうえに出てきますが、ただ大きな画面に描いたという絵だけにはしたくないと思つております。ということで仕事の他に絵の方はこの年で大分力を入れていて自分でも思つております。今後とも宜しくご指導お願い致します。

### 年寄りのひとり言(三) 北口夢石

平成二十六年十一月二十二日神戸港を出航南シナ海をマレーシア・コタキナバルを皮切りに十二月二日インド洋上で赤道通過、南アフリカ、南アメリカ、南太平洋をイースタ島からガダルカナルの戦跡を訪れ硫黄島沖を航行して、今年三月六日神戸に帰港、一〇四日間の船旅をさせて頂き、三年前の北廻り世界一周に続き二度の船旅に感謝一人です。

帰国して一番驚いた事は会長様が亡くなつておられた事でした。何も知らず旅行していた自分が申し訳なく悔やまれました。心から冥福をお祈り申し上げます。そして会う人ごと何が一番楽しかったですか？これからの仕事に生かされますね等々聞かれますが、私自身あまりそのようなことを考えた事がなく、船そのものが好きなので船中の毎日が楽しくゆつたりと過ごしました。隣のキャビンの在日中国人女性の方と直ぐ仲よくなり時折バー(一)一緒したり、又在日韓国籍のお嬢さんとも仲良くなり、三年前の航海で知り合った京都のご婦人も一緒だったので心強くお世話になりました。他にも大勢の方々知り合い帰国してからも遊びに来られたり行つたり文通したりです。

船客で私が最高齢だったので年末のカウントダウンでは船客代表で「行く年くる年の御免と有難う」の挨拶をさせられたり、洋上成人式では祝辞を述べたり大変でしたが有難い事でした。食事、掃除洗濯など日常生活はすべて船任せで毎日船内新聞が発行され講演会、映画会、運動会、演芸会、ダンス、日舞、歌謡、演奏、語学など趣味の講座などに参加するのが忙しく楽しみました。寄港地の話になります

と、十一月二八日最初の寄港地マレーシア・コタキナバルではタンジジュン・アル・ビーチで美しい海を眺めモスクや大学住宅街を車窓から観光して、十二月二日、今回二度目のシンガポールは清潔な町で、くわえ煙草は勿論チューインガムを口にしていけないし販売もしていない持ち込んでいけないなどの事です。マライオン公園、中国風寺院、モスク、特に整つた街並みを観光しました。

十二月十一日インド洋上に浮かぶ小さな島国モリシヤス・ポートルイスに上陸アフリカやアジアの鳥を集めたカセラ・パード・パークを観光専用車で巡りましたがあまり鳥は見られず美しい縞馬の群れや麒麟、駝鳥達を近々に見られ満足しました。街並みやモスク、広場などを車窓観光。十二月十三日インド洋上アフリカ東側の大きな島国マダカスカル・トアマナでは独立大通、活気あふれるバザールを観光、大木バオバブの樹や砂を運ぶ丸木船をゆつくり観察しました。十二月十八日アフリカ大陸モザンビーク・マップトに寄港ポルトガルの影響を受けて独自の文化と街並みを形成したマップト、中央駅やローマカトリックの聖堂等、特に感じたのは奴隷を運び出した要塞を見学したことです。(紙面の都合で次号に続く)

### 関東近県の支部展巡りをして

東京支部・早田美智子

行ける時に行つておこうと思ひ立ち、今年関東近県の新日美各支部展におじゃまし、みなさんの作品をたくさん見せて戴きました。

せっかく案内状を戴いても仕舞い過ぎて見逃したり、忘れてしまつたりが多いこの頃。今年は新日美のホームページで場所と日時を再確認し、しっかりと手帳に記入して備えました。

三月の「さきたま支部展」(三月九日〜大宮・氷川の杜文化館)を皮切りに、「東京東支部展」(三月二三日〜葛飾シノフォニーヒルズ)、千葉支部展(四月二四日〜我孫子市民ギャラリー)、「神奈川支部展」(四月二八日〜アートガーデン川崎)。

五月に入つて「埼玉西支部展」(五月五日〜川越市立美術館)、「埼玉東支部展」(五月二七日〜春日部商工センター)。そして六月が「多摩支部展」(六日〜八王子のギャラリー新)。

予定した七支部展全てを回りましたが、今更な



が「みんな凄いなあ」が実感でした。上野の本展に出された百号の作品も、支部展の会場に飾られると、かなりの迫力があります。もちろん水彩、スケッチ、小品の静物画等々もそれぞれに驚いたり感心したり圧倒されながら、楽しい時間を過ごさせていただきました。

なぜ描くか、何を描くか、は何人もの方から伺いました。自分らしさとは、と思ひ悩んでいるのは私だけではないと知つて、少し安心したり・・・。

新鮮な「気」を入れて戴いたような支部展めぐりでした。

### 阿・吽像に魅せられて

最後に多摩支部で出会つた武部起彦さんの作品(写真・左)をご紹介したいと思います。

力強いタッチで描かれた仁王像です。一〇号のバステル画二枚で「仁王阿像(青梅・即清寺)」と「仁王吽像(青梅・即清寺)」。

「金網の戸を開けて中に入れてもらったんですよ。とつてもりつばな彫刻なんです」と本人が語つてくれました。勢いのある線や色調が見ていてとても心地好い。ふと、「昨年の本展に同様の「仁王像」を描かれていた記憶が甦る。「奈良の金剛峯寺です」とのことでした。

武部さんとはこの日初めてお会いしたのです



が、作品では何度かお目にかかつてることになりま

す。どこか懐かしかったのはそのせいだったかもしれない

せん。